

# オバマ外交と日本

前駐米大使、上智大学特別招聘教授

藤崎一郎

- \*米中関係は構造として考える
- \*北朝鮮の最大の目的は体制の延命
- \*経験を軽視せず、経験におぼれず
- \*外交は組んでやるしかない
- \*決まり文句にだまされない
- \*細かく計算したうえで構える
- \*日本がどう反応するかを見ている
- \*真ん中のほうに戻せるかどうか
- \*譲らず、油断せず、挑発せず
- \*外交で大事な「かきくけこ」



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、前駐米大使の藤崎さんにお越しただきました。ご存じかと思いますが、東日本大震災の頃にアメリカでいろいろご尽力されました。また、後でお話が出るかもしれませんが、ポトマックの桜の100年祭のときも、ポトマックの桜のことをいろいろ調べてまとめられたというところもございました。オバマ外交については、昨今、習近平主席との会談もございまして日本でも話題になっておりますが、少し大きな見地からどういふふうに見たらいいのかわかっているいろいろお話しただけなのではないかと思えます。

藤崎 ご紹介にあずかりました藤崎でございます。どうぞよろしくお願いたしました。（拍手）

先ほど理事長が、米中首脳会談があつて、こういう問題はどういふふうに見ていくか少し大づかみのことを考えてみたいとおっしゃったわけです。私も、まさにそういうことをお話ししてみようと思つて参りました。私は外務省に43年いて、国際関係に携わつてまいりました。その中で何が大事か、どういうことを考えていくのが大事だと思つたのかについてお話ししたいと思えます。

たとえば先般の米中首脳会談ですが、出版社でこういう話をするのはどうかと思えますけれども、メディアはとかく、物事は面白くなければいけないと考えるわけです。実は私、米中首脳会談の最中にテレビの取材を受けました。コメントを一言言つてくださいと。もちろん私だ